

令和4年度

事業報告書

◇株式会社 ひなたぼっこ

◇デイサービス ひだまり
・地域密着型通所介護

◇デイサービス えんがわ
・地域密着型通所介護

◇グループホーム にじいろ
・共同生活援助

株式会社 ひなたぼっこ 事業報告書

1 法人理念

- ・ 利用者やご家族の皆様から信頼される事業所を目指します。

「皆様からの信頼を得るために、出来る限りの受入れを致しました。昨年度同様に、事前情報で暴力行為があるという方でも受け入れし、限界まで誠意を尽くさせていただきました。他利用者に危害が及ばないうちに断念した方もおりますが、ただ断るだけでなく行ってみてからの判断をしたため、本人・ご家族からは納得していただいております。また、初年度にひだまり事業所でも受け入れいたしました。えんがわ事業所で看取り介護の方を受け入れいたしました。」

- ・ 優しさと温かさに満ちた事業所を目指します。

「昨年度同様、暴力行為を受けたとき又は受けそうになった時でも、対話をもって沈静させております。時には親子喧嘩・兄弟喧嘩のような口論になるときもありますが、結果的には温かい対応だと利用者様そのご家族様からお言葉をいただいております。全事業所同様の対応をいたしております。全事業所概ね良好だと存じます。」

- ・ 明るく元気のある事業所を目指します。

「若い職員が半数を占める事業所ですが、皆、明るく活発に従事してくれております。全事業所、概ね良好だと存じます。」

- ・ 地域に開かれた事業所を目指します。

「法律に定められている運営推進委員会を年に二回（今年度は新型コロナウイルス流行のため3/29分（えんがわ事業所）が中止）開催しており、地域の方々にご報告させていただいております。ようやくコロナ渦が沈静化してきた中で、概ね良好だと思われれます。ただ、高齢者部門では居宅支援事業所等地域の方々には良好な関係を継続させていただいておりますが、障害者部門では、元職員が基幹型相談支援事業所の方々に悪評を流し、それが他相談支援事業所に噂として広まってしまい、それに気が付いたのはつい最近の事で、結果的に地域に開かれた事業所どころか地域に根差すこともままならない状態です。」

2 運営方針

利用者様が安心して充実した環境や利用者本位のケアを提供し、ご家族、地域の皆様とのふれあいにより事業所の温かさが一層感じられるようなサービスの提供に努めます。

利用者様本位のサービス提供することによって、『第二の我が家』に近付けるよう努めます。

今年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルスに職員だけでなく、利用者

およびそのご家族にも感染防止に努めます。

「ご利用者様本位のケア計画を作成し、サービス提供することによって、『第二の我が家』に近付けるよう努めました。

また、介護記録（ケース記録）を介護計画書に準じて記録することにより、モニタリングを行いやすくいたしました。ケアマネジャー様やご家族様への報告がより適宜に行うことができ、安定した利用者確保に努めました。

法人理念でも述べた通り、ご利用者様及びそのご家族様からは信頼いただいているように思われますが、今年度は新型コロナ感染をひだまり事業所に続きえんがわ事業所でも流行させてしまいました。第4波は世間でも最も流行いたしました。当事業所でも例外なくほとんどの役職員及びご利用者並びにそのご家族まで感染させてしまいました。その結果、当年度は大きなマイナス決算になってしまったことは言うまでもありません。

3 株主総会（地域運営推進会議兼務）の開催

令和4年5月24日 午前10時00分 開催 同 10時50分閉幕

5月 年度事業報告、決算の承認（注1）

3月 翌年度 事業予算案、事業計画の審議（注2）

※ 上記以外の地域運営推進会議は必要に応じて開催。

※ 株主総会は決算報告時に開催

（注1） ひだまり事業所は令和4年5月26日に、
えんがわ事業所は令和4年5月29日に実施。

（注2） ひだまり事業所は令和5年3月26日に、
えんがわ事業所は新型コロナ流行の影響を受け未実施。

4 事業運営

① 第二種社会福祉事業

地域密着型 通所介護（デイサービス ひだまり）経営

目標として、実人数15名（月）延べ日数240日、平均利用人数8.0人を目指す。

4月	実人数17名	延べ日数214日	活動日数30日	平均利用人数7.1人
5月	実人数15名	延べ日数215日	活動日数31日	平均利用人数6.9人
6月	実人数16名	延べ日数215日	活動日数30日	平均利用人数7.2人
7月	実人数14名	延べ日数219日	活動日数31日	平均利用人数7.1人
8月	実人数13名	延べ日数120日	活動日数31日	平均利用人数3.9人
9月	実人数16名	延べ日数213日	活動日数30日	平均利用人数7.1人
10月	実人数16名	延べ日数212日	活動日数31日	平均利用人数6.8人
11月	実人数17名	延べ日数243日	活動日数30日	平均利用人数8.1人
12月	実人数17名	延べ日数277日	活動日数31日	平均利用人数8.9人

1月	実人数18名	延べ日数245日	活動日数31日	平均利用人数7.9人
2月	実人数19名	延べ日数232日	活動日数28日	平均利用人数8.3人
3月	実人数21名	延べ日数301日	活動日数30日	平均利用人数9.7人
合計	実人員199名	延べ日数2706日	活動日数365日	平均利用人数7.4人
(昨年)	170	2300		6.3)

数字だけを見ると昨年度より大幅に増加しており良好と思われませんが、一昨年度（実人員200 延べ日数2659 平均7.3）と比較するとほぼ同数でした。しかしながら、8月の新型コロナ感染や移転前の隣人の苦情がありつつも結果的にこの数字を残せたのは、当事業所の運営方針が浸透してきたと推察します。11月からの引っ越し（移転）も、コロナ渦の対応（活動面積の増加）や定員増加（9名→12名）により令和5年3月にはひだまり事業所最大利用数となりました。皆様への感謝を忘れずに、日々なお邁進する所存でございます。

地域密着型 通所介護（デイサービス えんがわ）経営

目標として、実人数18名（月）延べ日数300日、平均利用人数10.0人を目指す。

4月	実人数17名	延べ日数319日	活動日数30日	平均利用人数10.6人
5月	実人数18名	延べ日数324日	活動日数31日	平均利用人数10.5人
6月	実人数18名	延べ日数322日	活動日数30日	平均利用人数10.7人
7月	実人数17名	延べ日数334日	活動日数31日	平均利用人数10.8人
8月	実人数19名	延べ日数240日	活動日数31日	平均利用人数7.7人
9月	実人数18名	延べ日数301日	活動日数30日	平均利用人数10.0人
10月	実人数18名	延べ日数303日	活動日数31日	平均利用人数9.8人
11月	実人数19名	延べ日数337日	活動日数30日	平均利用人数11.2人
12月	実人数19名	延べ日数350日	活動日数31日	平均利用人数11.3人
1月	実人数19名	延べ日数336日	活動日数30日	平均利用人数10.8人
2月	実人数17名	延べ日数285日	活動日数28日	平均利用人数10.2人
3月	実人数19名	延べ日数357日	活動日数31日	平均利用人数11.5人

合計	実人員218名	延べ日数3808日	活動日数365日	平均利用人数10.4人
(昨年)	210	3355		9.2)

今年8月に新型コロナによる休業があり、9月・10月のコロナ渦のあおりを受けながら、昨年度と比して増加しており、改めて職員の頑張りとおかげと感謝しかございません。また昨年度3月に定員変更（9名→13名）したおかげで、令和4年12月にはえんがわ事業所最大利用数となりました。

共同生活援助（グループホーム にじいろ）経営

目標として、実人数 10 名、平均利用人数 6.5 人を旨す。

4月	実人数	0名	延べ日数	0日	活動日数	0日	平均利用人数	0人
5月	実人数	0名	延べ日数	0日	活動日数	0日	平均利用人数	0人
6月	実人数	0名	延べ日数	0日	活動日数	0日	平均利用人数	0人
7月	実人数	1名	延べ日数	31日	活動日数	31日	平均利用人数	1.0人
8月	実人数	2名	延べ日数	42日	活動日数	31日	平均利用人数	1.5人
9月	実人数	2名	延べ日数	60日	活動日数	30日	平均利用人数	2.0人
10月	実人数	2名	延べ日数	62日	活動日数	31日	平均利用人数	2.0人
11月	実人数	2名	延べ日数	60日	活動日数	30日	平均利用人数	2.0人
12月	実人数	2名	延べ日数	62日	活動日数	31日	平均利用人数	2.0人
1月	実人数	2名	延べ日数	62日	活動日数	31日	平均利用人数	2.0人
2月	実人数	2名	延べ日数	56日	活動日数	28日	平均利用人数	2.0
3月	実人数	2名	延べ日数	62日	活動日数	31日	平均利用人数	2.0人

合計 実人員 17名 延べ日数 497日 活動日数 274日 平均利用人数 1.8人
 (昨年 0 0 0)

開設当初から待機をしていらした方が7月1日に受け入れ、営業活動の成果で8月21日に1名を受け入れましたが、結果的にはこの2名のみしか入所に至りませんでした。開設当初から8月くらいまでは問い合わせが月に10件、見学者が月に2名くらいはございましたが全くなくなりました。その原因が契約したコンサルタントによる不適切なアドバイスと、そのコンサルタントの紹介で入職した職員が基幹型相談支援事業所の方々に悪評を流し、それが他の相談支援事業所に噂として広まってしまい、その事実気が付いたのは年度末の3月の事でした。縁が合って少しの期間在籍していただいたサービス管理責任者の営業で発覚いたしました。現在はこのコンサルタントと紹介サービス管理責任者は辞任・退職しておりますが、費用については莫大な金額がかかっており、今年度の決算を大きく負債へと傾けた原因です。私（＝社長）の目の節穴だったと大反省です。

今年度の事業活動収支増減差額は、	－22,055,760円
次期繰越は、	－29,748,876円
今年度の当期資金収支差額合計は、	－6,813,389円
当期末支払資金残高は、	11,594,615円

5 新規事業の展開

昨年度に新規事業として開始した障害者グループホーム事業に関して、今年度は更なる拡充を目指します。

「今年度は、障害者グループホームの運営が芳しくないため、一時新規事業展開は静観しております。」

6 重点施策

(1) 経営基盤の確立・強化

現行事業所の特徴の周知と利用者の獲得強化を図る。

- ① 事業所の数値目標：えんがわ事業所は稼働率 90%以上を目指す。ひだまり事業所は新規管理者の配置と稼働率 80%以上を目指す。
- ② 現行事業所が、居宅支援事業所等に全職員が営業マンとしての意識付けを行い、利用者の確保に努める。
- ③ 収益を増やす方法をリスト化し、職員の協力のもとその実施を進める。

「今年度の稼働率は、えんがわ事業所が 80.25%、ひだまり事業所が 72.39%と目標数値にはやや足りませんでした。コロナ感染期間の1ヶ月(8月)及びその後の2~3カ月の減収があるものの、2つの事業所とも年間収入総額は増収いたしました。本当に役職員一丸となって困難期を脱して、充足を図る事が出来た年度でした。

一方で、新規事業である障害者のグループホームに関しては、良い人材が確保できず、また、営業力不足もあり年度末稼働率は50%に留まって、とてもハード的には申し分のない物件を得ましたが、不本意な運営となり大きなマイナス要因となってしまいました。」

(2) 人材確保と職員の資質向上

現行利用者の重度化への対応及び介護(入浴)サービスの向上のため、職員の確保と資質の向上を進める。

- ① ハローワークや社会福祉協議会等を通じて介護求職者へのアプローチの場を増やし、採用に繋げていく。
- ② 県内の社会福祉養成校や見学の受け入れ等により、新卒や新規資格取得者の獲得を目指す。
- ③ キャリアパスの実施により職員に求めるレベルを明確にし、資質の向上に繋げる。
- ④ 人事考課制度を導入することのはじめとして、振り返り表を活用し、職員全体のレベルの底上げを図る。

⑤ 退職金制度を周知し、職員が安心して働き続ける環境を整備する。

⑥ 各種マニュアルを整備し、業務手順の統一化をする。

「今年度はひだまり事業所では管理者の擁立、えんがわ事業所では優秀な人材を確保することができましたので、コロナ感染期間中でも、管理者を中心に社長をも含め何度も協議を行い、安定した良質のサービス提供に努めました。結果的には昨年度よりも増収できました。

また、ひだまりの管理者は経験が浅く、現在は発展途上にございますが開設当初から在籍している職員に支えられ、こちらもコロナ渦を乗り越えることが出来ました。しかしながら、職員の質としてはまだまだ発展途上にあり、管理者も育てつつ介護現場の資質向上とは物足りなく思います。」

(3) 地域との調和

福祉資源を活かし、地域に親しまれる施設づくりを目指して、災害時の福祉避難所の役割や地域の介護支援を担い、特に今年度は、正しい感染症予防対策をすることで、地域にも浸透させ地域貢献を目指す。

① 通所介護施設同士の横の繋がりを強化し、情報交換がより円滑に行えるように交流を進める。

② 各事業所が地域の居宅介護支援事業所や、福祉関係者、地域住民等と積極的に交流し、地域に愛される事業所を目指す。

③ 感染症対策を正しく実施し、地域に不安を感じさせないようにする。

「今年度も昨年に引き続き、ほとんどの内容で新型コロナウイルスの流行による影響があり、地域との調和を進めることが出来ませんでした。」

(4) 苦情解決への取り組み

利用者のご家族の皆様の苦情を真摯に受け止め、適切な施設運営に資するため、苦情の有効な活用を進める。

① 第三者委員会（運営推進委員会）の年2回開催する。

② 家族への満足度アンケートを実施し、サービスの向上を図る。

「運営推進委員会については、新型コロナウイルス流行による影響もあり、年1回の実施となりました。

アンケートの実施には至りませんでした。苦情報告として、ひだまり事業所にて隣人方より、多数の苦情をいただきました。内容としては、昼間に騒がないで欲しい、うるさいので窓を開けずに活動をしてほしい、うるさいので防音シートを張って欲しい、等々です。愛川町役場にも苦情を言ったと脅し口調で言われ、役場の方からもそのような苦情がありました。ご報告もいただき、ご迷惑をおかけいたし

ました。コロナ対策としての引っ越しではございますが、今年度の財政的に苦しい中で移転を決断した背景には、このような事情もございました。そのために借り入れも増やし、マイナス要因としての一因であります。ただ、今回の苦情の有効な活用方法として、やはり様々な方が地域には生活されているのだから、周囲にはご迷惑にならないように隣接建物からは少しでも距離を離すことに現在の物件は重点を置きました。」

(5) 防災訓練の実施

万一の事態に直面しても、職員が冷静に対処できるよう、日頃から訓練を行う。

- ① 防火訓練の年2回の実施
- ② 新人研修における防火研修の実施
- ④ 救急救命講習の実施
- ⑤ 災害時訓練の年1回の実施

「コロナ渦の中とは言え、ひだまり事業所とえんがわ事業所ではそれぞれ1回ずつですが消火訓練を行いました。それぞれの管轄消防署では次年度には総合訓練の実施に努めてくださいとご指摘をいただきました。

また、全事業所で業者による年2回の消防設備点検を実施いたしました。」

(6) 職員交流

- ① 福利厚生の一環として諸交流会などを衛生委員会にて企画する。
 - ② それぞれの事業所ごとに歓送迎会・親睦会を適時行う。
- 「それぞれの事業所で、会議・懇親会を行いました。」

7 会議・委員会

運営会議

概ね2か月に1回実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染時の1回のみで、継続できませんでした。しかし、それぞれの事業所ごとに、突発的に起こった事故等の対処として臨時的に開催は行っておりました。

新規利用者検討会

概ね2か月に1回（ケース会議を含み）実施予定でしたが、コロナ渦により未実施。事業所ごとに臨時的に行っておりました。

衛生委員会

発足させることが目標でしたが、未発足です。

事故防止・身体拘束委員会

その都度 臨時的に実施 又はケース会議時に実施

感染症対策委員会

特に今年度は運営会議の中で大半は感染対策に時間を費やして実施

ホームページの更新 春夏秋冬の各事業所の行事を掲載する予定でしたが、やはりコロナ渦で情報の送信・更新までできませんでした。

8 健康管理

- ① 健康診断 年1回(7月～8月) 1年以上経過した職員に実施
- ② インフルエンザ予防接種 (12月) 職員全員(希望者)に補助して実施
- ③ 新型コロナウイルス予防対策(補助金の活用) 副作用の強い症状が出る等個人の判断により実施

9 研修計画

「今年度も研修計画の作成に至りませんでした。しかし、外国人を含めた新人職員等の腹案研修計画を立案できました。」